



2020年7月9日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労「第36回定期全国大会」開催

# コロナ禍の難局を労使が一体となって乗り越えよう！



貨物鉄産労は、7月4日、第36回定期全国大会を開催し、2020年度の運動方針を満場一致で決定した。今大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため書面議決の形式が採られ、同感染症で影響を受けているジェイアール東海ホテルズ労組の仲間の支援も兼ねてホテルアソシア静岡（静岡県静岡市）で開催された。

冒頭、執行部を代表して大杉正美中央執行委員長は挨拶に立ち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるJR貨物の経営動向として、6月23日時点で当初計画より運輸収入は約34億円減となり通期で約120億円減見込みであるという貨物鉄産労を取り巻く厳しい状況に触れたうえで、JR貨物への経営支援策のあり方、新人事賃金制度の運用後のチェック、交通政策課題の3点について所信を述べ、課題提起した。また、現下の状況によって、JR連合に加盟する健全な労働組合こそが職場の不安を解消できるということや、雇用を守りながら急激な社会の変化に対応し、JR産業が持続的に発展していくためには、健全な労働組合と会社が労使で力を合わせていかなければならないことが明らかになったとの認識を示した。

提案された各議案は、7名の代議員から事前に受けた質疑に対する執行部答弁も含め、同意確認書によって満場一致の採択が確認された。最後に、大杉委員長の団結ガンバローの三唱で、貨物鉄産労の今後の運動の一層の展開と、さらなる前進に向けて決意を固め合った。